

ロータリーの基本

1. 総論	1
1.1. ロータリーとは	1
1.1.1 ロータリーの定義	2
1.2. ロータリーの理念	4
1.2.1 アーサー F・シェルドンの哲学	4
1.2.2 ロータリーのモットー	6
1.3. ロータリーの目的	7
1.4. 四つのテスト	7
1.5. ロータリアンの行動規範	8
1.6. ロータリーの歴史	9
ロータリーの創立/最初の綱領(目的)/全米ロータリークラブ連合会/ 道徳律(職業倫理訓)/アーチ・クランフ基金創立/理念の提唱か奉仕の実践か/ 決議 23-34/四大奉仕部門の採用と五大奉仕部門/世界大恐慌/日本のロータリー	

参照文献

ロータリーの基本 (RI 第 2840 地区「ロータリーの基本」～研修の手引き～)
(2012 年 5 月改訂第 2 版 地区研修委員会発行) を引用

ロータリー情報・研修委員会

2016年2月

1 章 総論

1. 1. ロータリーとは — 人を作る団体

ロータリーは、ある一人のアメリカ人のビジョンによって始まりました。その人の名前は、ポール・ハリス。シカゴで弁護士として働いていたハリスが、世界初のロータリークラブ(シカゴロータリークラブ)を設立したのは、1905年2月23日のことでした。

ハリスは、多様な職業を持つ人びとが集まり、アイデアを交わし、生涯にわたる友情を培うことのできる場として、ロータリーを設立しました。「ロータリー」という名は、当時、各メンバーの職場を持ちまわりでミーティング場所としていたことに由来することはご承知のとおりです。このハリスのビジョンから始まったロータリーは、約110年を経て、現在200以上の国と地域に約35,000のクラブがあり、120万人以上の会員に成長しています。また、日本では会員数は減少傾向にあるものの、現在約9万人の会員、約22,400のクラブにまで拡大し、2020年には日本のロータリー誕生100年を祝おうとしています。

しかし、この素晴らしいロータリー運動も21世紀を迎えようとしていた頃から、少しずつ変化の兆しが見え始めてきました。特にロータリー先進国と言われているアメリカをはじめ日本、カナダなどで会員数が減少し始め、またその活動も次第に人道的なボランティア活動が強調されるようになってきました。さらに、その変化に時を合わせるように、会員資格、職業分類制度、例会の意義と言った初期のロータリーの基本にまでも大きく変化してきました。

ロータリーが変わった、魅力がなくなると嘆くベテランのロータリアンの声が聞こえてきます。しかし、ロータリーの仕事をするのはクラブとその会員であってガバナーでもRI理事でもRI会長でもありません。これはロータリーの変わらぬ原則であり、だから“You are Rotary”「あなたがロータリー」(1960-61年度RI会長J.E.MacLaughlin)なのです。

『ロータリーは奉仕団体だ』とよく言われる。しかし、それは正確ではない。正確には、ロータリーは奉仕する人の団体。言い換えれば奉仕する人を育てる団体だと言える。そして、その心が高められた人たちが、世のため人のために何か奉仕(サービス)をした結果、世界理解と平和に貢献していくことになる。

元来ロータリーは、高度な哲学や宗教から出発したものではなく、人間が本来生まれながらに心の奥に持っている目に見えない精神、他人に役立ちたいという心を発掘し、育てていくことなのである。これがロータリーの生命力であり、また原点でもある。

ウィリアム・ロビンズ(William R. Robbins) 1974-75年度国際ロータリー会長は“Rotary’s first job is to build men”「ロータリーの第一の仕事は人を作ること」と述べられ、更に日本での講演の際、こう語っています。『ロータリークラブの真価は、いかほどの金銭を集めたか、いかほどの計画を実践したかではなく、そのクラブがいかなるロータリアンの人づくりをしたか、ということに尽きる。金品を社会に寄贈して奉仕するのは、ロータリーの本義ではない。奉仕する人を育成して社会に寄贈するのがロータリーである』

ところで、人生の目的を考えると、人間はただ生まれて死んで行くだけでは意味がない。少しでも世の中を良くしなければならぬ。なぜなら、人間は社会的動物であり、孤立しては幸福になれないからだ。人から喜ばれ、人から親しまれる —— そこに人は幸福を感じることができる。

人間は文字通り、人と人との間柄において人間なのである。

私があってあなたがある。あなたがあって私がある。だから、他人に尽くすことは、とりもなおさず自分に尽くすことに繋がる。より良き私とより良きあなたは一体不二であり、人を作ることが自分を作るのであるのだ。

『悲しみは人と分かるときに半分になり、喜びは人と分かるときに2倍になる』と言われるが、それ故これは真実なのである。

また、奉仕(サービス)は決して自己犠牲を強要するものではない。人のために尽くすことは結局、自分のためになる。私たちはこの一連の思想を次のようなモットーで表している“**He profits most who serves best.**”(最もよく奉仕する者、最も多く報いらわる)。

このことを体験的に信じている世界中の人の集まりがロータリーであって、ロータリーの奉仕理念なのだ。ロータリーとは、人間が本来持っている普遍的な価値、何か人に役立ちたいと言う気持ちを推進し、実行し、広げていこうという運動なのだ。

ウィリアム・カーター(William C.Carter) 1973-74年度国際ロータリー会長は『きまりきった日常生活を散文とすれば、ロータリーは人生の詩である』と述べている。詩は言わば『無用の用』であり、心の余裕がなければならない。一種の遊び心が必要だ。つまり、詩は人の心を昇華して俗塵を払い、人の人生を楽しく美しく彩るものなのである。その観点に立てば、ロータリーにはまさに、最も人間らしく生きるための道が示されているのである。

『ロータリーは紙に書かれた何かではなく、心に刻まれた何かなのである』(前述のウィリアム・ロビンズ国際ロータリー会長)とは至言である。まさにその人の生き方そのものがロータリーとなるのだ。

(引用文献:佐藤千壽全集)

1.1.1 ロータリーの定義

ロータリーの定義

1976年、国際ロータリー理事会はロータリーの基本的な特性に簡明な定義を与えることに関心を持ち、当時のロータリー広報委員の3人にロータリーの定義を一文にまとめて表現する案を作成するように依頼した。多くの原稿が出されたが、この中から下記のような定義が選ばれ、これがそれ以来多くのロータリー刊行物に使用されてきた。

英字で31文字、日本語で101字のこの定義は、「ロータリークラブというのは何ですか?」とたずねられたときに思い出す価値のある言葉とされている。

“Rotary is an organization of business and professional persons united worldwide who provide humanitarian service, encourage high ethical standards in all vocations and help build goodwill and peace in the world.”

「ロータリーは人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した、事業及び専門職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体である。」クリフォードL. ダクターマン(Cliff Dochterman 1992-93年度国際ロータリー会長)の“The ABC’s of Rotary”「ロータリーのいろは」より

ロータリー運動の実体を表す言葉 — 『入りて学び、出でて奉仕せよ』

ロータリー運動の実体を、見事に表した言葉として、[入りて学び、出でて奉仕せよ Enter to learn, Go forth to serve(公式ではありませんが、ロータリー親睦グループの Rotary Global History Fellowship の資料では、1947-48年度 S. ケンドリック・ガーンシー国際ロータリー会長の RI テーマとして扱われている)と言う言葉があります。世の中のあらゆる有用な職業から選ばれた裁量権を持った職業人が、一週一回の例会に集い、例会の場で、職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を計り、その結果として奉仕の心が育まれてきます。この例会における一連の活動のことを[親睦]と呼ぶのです。例会で高められた奉仕の心を持って、それぞれの家庭、職場、地域社会に帰り、奉仕活動を実践します。これが理想とされるロータリーライフです。

最近のロータリーの定義

世界各地のロータリー会員に、「あなたがロータリーで熱心に活動する理由は?」と問いかけたところ、次の3つに集約される答えが返ってきました。

1) リーダーのネットワーク (Join leader):

ロータリーは、世界のさまざまな国や職業のリーダーのネットワークです。

2) アイデアを広げる (Exchange Idea):

ロータリーは、多様な会員のアイデアや職業の専門知識を生かして、地域社会のニーズや問題に取り組めます。

3) 行動する (Take action):

ロータリーは、世界中の地域社会を長期的に改善するために行動します。

ロータリーとは何ですか？

「ロータリーとは何ですか？」と聞かれたら、この3つのエッセンスをストーリー化して表現し、明確に、わかりやすく説明できることが大切です。

たとえば、

「世界中のロータリークラブは、地域社会の重要な問題に取り組もうとする有志が集まり、行動を起こしています。」

また、「ロータリーを通じて、社会貢献に関心のある人たちと知り合い、一緒に活動し、世界中に友人や恩師となる人ができました」という答え方もあるでしょう。

それぞれが自分なりの紹介方法を用意しておくことをお勧めします。

ロータリーとは・・・

「ロータリーは、会員同士の友愛を通じて生涯にわたる友を作り、国や文化を超えて世界の人々と国際理解を深め友情をはぐくみます。そして、社会の倫理・道徳を高めながら、会員一人ひとりの職業のスキルやリーダーシップを生かし、地域社会や世界の問題に積極的に取り組みます」

ロータリーの中核的価値観(守るべき価値観)

私たちの価値観は、組織の考え方と方向性を定める原動力であり、戦略計画においても重視される要素であり、ロータリーの中核的価値観は、奉仕(Service)、親睦(Fellowship)、多様性(Diversity)、高潔性(Integrity)、リーダーシップ(Leadership)である。後述の「2.2 戦略計画」を参照のこと。

ロータリーのリーダー

ロータリーでは、地域のために力を尽くす草の根のリーダー、そして世界のためにがんばるグローバルな市民が集まって、一緒に活動しており、ひとりでも多くの人に参加していただければ、もっとたくさんの「よいこと」が可能となる。また、あらゆる分野の第一線で活躍するリーダーが、それぞれの持ち味を生かして街づくりや教育支援、社会問題に取り組んでいる。

そして、さまざまな職業や専門スキルをもつ人たちが、アイデアや知識を寄せ合って活動している。ロータリーのリーダーは肩書ではなく、考え方や行動を通じて、リーダーシップを発揮する責任あるリーダーを意味する。

ロータリーが私たちにとって
何を意味するにせよ、世界は、
その業績によってロータリーを知るのです。
— ポール・ハリス —

1.2. ロータリーの理念

奉仕の理念 (The Ideal of Service) とは何か

従来“**The Ideal of Service**”の意味を解説した文献は、以前の『公式名簿』巻末にチェスレー・ペリーが記した「ロータリー小史」の1 節だけだとされていました。

全世界のロータリークラブは一つの基本理念－「奉仕の理念」を持っています。それは**他人のことを思いやり、他人のために尽くす**ことです。

しかし、1931年にRIが発行した「目標設定計画」(The Aims and Objects Plan)というパンフレットの中で“**The Ideal of Service**”の意味を以下4つの言葉で示しています。

一つめは、ロータリーの第1モットーである「**超我の奉仕**」。二つめは、同じく第2モットーである「**最もよく奉仕する者、最も多く報いられる**」。三つめは、「**他者への思いやり**」これは上記のチェスレー・ペリーの言葉と同じです。四つめは「**人にしてもらいたいと思うことは何でもあなたがたも人にしなさい**」という黄金律(マタイによる福音書7-12)。当時のロータリアンが“**The Ideal of Service**”に託した意味は、以上4つの言葉が意味するものを包含していると考えられます。

(引用文献:RI 第2840地区「ロータリーの基本」より)

1.2.1 アーサー F・シェルドンの「ロータリーの哲学」(1921年)

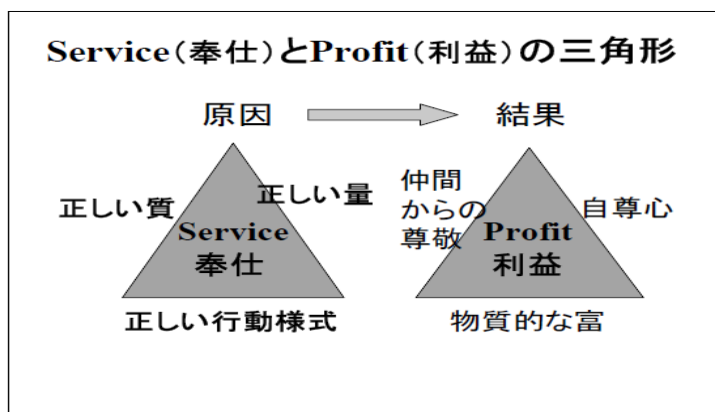
ロータリー独自の「奉仕」“**Service**”概念を確立したのが「ロータリーの哲学者」といわれ、ロータリーの第2モットー「**最も良く奉仕する者、最も多く報いられる**」の作者であるアーサー・フレデリック・シェルドンです。シェルドンは1908年にシカゴRCに入会し、ロータリー活動や理念の哲学的根拠を提示した人です。シェルドンは、1921年「ロータリーの哲学」という論文の中で、ロータリーの「サービス」の意義を詳しく論じています。

シェルドンは「ロータリーの哲学は、サービスの哲学である」と主張します。そして、ロータリー・モットー“**Service Above Self - He Profits Most Who Serves Best**”の中の、“**Service**”と“**Self**”と“**Profits**”の関係を明らかにすることでロータリーの哲学を明確にしようとしています。(ここでは、二つのモットーが一体化して示されていること(モットー“**motto**”は単数)に注目すべき)

Service(奉仕)とProfit(利益)の三角形

シェルドンは、“**Service**”と“**Profit**”とは、原因と結果の関係にあると言います。“**Service**”があるから“**Profit**”が生じる。“**Service**”が先で、“**Profit**”はその結果であると言うのです。原因としての“**Service**”は、「正しい質」・「正しい量」・「正しい行動様式」で構成されており、一方、結果としての“**Profit**”は、仲間からの尊敬や自尊心の満足といった精神的な充実感と、物質的・金銭的な利益の両面を意味しています。

シェルドンの“**He Profits Most Who Serves Best**”という言葉は、金銭的な利益を求める功利主義と誤解されることがあるのですが、“**Profit**”が単に「金銭的な利益」を指しているのではないこと、利益は目的ではなく結果であることがこの「奉仕と利益の三角形」の解説を読むとよくわかります。



Service(奉仕)における「正しい質」「正しい量」「正しい行動様式」とは

それでは、シェルドンの言う「正しい質」「正しい量」「正しい行動様式」とは、具体的には何を指しているのでしょうか。それは、

- 高い品質、適正な価格
- 豊富な品揃え
- 経営者・従業員の適切な接客態度
- 公正な広告
- 豊富な商品知識、高度な専門知識
- 十分なアフター・サービス

という、現代企業が顧客の信頼を得るのに必須の「サービス」と異なりません。

ロータリーにおける Service(奉仕)の現代的意義

1927年、「四大奉仕」の枠組みが確立し、以来「職業奉仕委員会」と呼ばれるようになった前身の委員会は、“Business Method Committee”(アーサー・シェルドンが初代委員長)という名称でした。当時、ロータリーにおいて「サービス」という言葉は、**正しいビジネスの方法**を示す中核概念だったのです。

「サービス」という言葉は、現代日本では「値引き」「おまけ」「無料」などの意味で使われることが多く、また、「商品」(モノ)に対して人的労力の提供を「サービス」と呼んでいます。サービスが正しいビジネスの方法を意味していたシェルドンの時代からロータリーの活動が広範囲に広がった100年後の現代ロータリーにおいては、「サービス」を、その最も広い意味で使うようになっています。すなわち、

「社会に役立つ価値を提供すること」

「世のため人のために尽くすこと」

ロータリーは、事業および専門職務の代表者の集まりですから、その「サービス」は先ず自らの職業で発揮されることとなります。それを「職業奉仕」と呼びます。自らの職業のサービス・レベルを高め、社会に貢献できるよう努めることが、ロータリアンの最優先課題といってもよいでしょう。

*朝日・読売・日経の各新聞が、米国のオバマ新大統領の就任演説の日英対訳を掲載していました。その演説の中に3か所、Serviceという言葉が出てきます。現代の米国でのServiceという語の使われ方がよくわかるのでご紹介します。

一つは狭義のサービス。「商品・サービス」(goods and services)と「商品」という言葉と対にして使われています。日本語訳でも訳しようがないので、「サービス」とカタカナ表記しています。

二つ目は、演説冒頭でブッシュ大統領に敬意を表して“I thank President Bush for his service to our nation”「私はブッシュ大統領のわが国への奉仕に感謝する」。朝日新聞はここを奉仕と訳さず、「わが国に対する貢献」としています。英語のServiceには、「奉仕」という日本語では伝わらない、「貢献」や「献身」の意味が含まれていることがわかります。

三つ目は、演説の後半、我々は過去のアメリカをつくり守ってきた英雄と同じように“the spirit of service”「奉仕の精神」をもつべきだと訴えています。そしてその「奉仕の精神」とは、「自分自身よりも大きな何かの中に進んで意味を見出す意思」と言い換えています。ロータリーの広義のService「世のため人のために尽くす」と重なっていると考えられます。

(引用文献:RI 第2840地区「ロータリーの基本」より)

1.2.2 ロータリーのモットー(標語)

ロータリーには二つのモットー(標語)があります。第1モットーは「超我の奉仕」“Service Above Self”。そして第2モットーが、アーサー・シェルドンの言葉で知られる「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」“He Profits Most Who Serves Best”です。

この二つのモットーの日本語訳については、昔から議論がありました。特に、第1モットーの「超我の奉仕」は「超我」が造語でもあり、カッコよいが意味がよくわからない、と言われていました。日本のロータリーの創始者である米山梅吉は、これを「サービス第一、自己第二」とか「自己に先立つサービス」と訳しました。「超我の奉仕」より原義を伝えています。第2モットーも、「最善のサービスをすれば、結果として最大の利益が得られる」とでも訳したほうがわかりやすいでしょう。

前掲のシェルドンの論文(『ロータリーの哲学』)ではこの二つのモットーは、一体化して提示され解説されていました。ロータリーの奉仕の哲学を端的に表現している「決議23-34」の第1条でも二つのモットーがキーワードとして並んで示されています。二つのモットーを一つの主張として捉えると、ロータリー・モットーの真意は次のようになると考えられます。

サービスを自己の利益や都合より優先させよう。利益はサービスの結果である。相手のために最善のサービスをすれば、結果として最大の金銭的な利益と、大きな精神的満足が得られる。

ここで主張されている思想こそ、「ロータリーの奉仕の理念」の核心です。そして、注意しなければならないのは、これは決して利益を求めて奉仕するという「功利主義」的な思想ではなく、他者のために尽くすことが自らの幸せ(喜び)であるという、他者に奉仕すること自体を目的とする「利他主義」の思想だということです。利益はあくまで結果です。

「奉仕の理念」は自分にとって何を意味するか？

「目的」に示されたロータリーの目的は、次のように言い換えることができます。

ロータリーの目的は、「奉仕の理念」を広め、その価値を高めてゆくこと。

そして、ロータリアンとは、個人生活・職業生活・社会生活等、人生のすべての面で、「奉仕の理念」の研鑽と実践を行う人である、ということが出来ます。

「奉仕の理念」の意味を解説した前掲の『目標設定計画』(1931年)の中で、「奉仕の理念」は自分にとって何を意味するか？という問いが私たちに投げかけられています。

● 職業奉仕も含めて「奉仕の理念」の解釈は意図的にロータリアン各自およびロータリアンのグループに任されている。

- その適用は広範で多様な状況、問題、可能性に対応して実行されなければなりません。
- ロータリアン個人が“私の職業を通じて「奉仕の理念」を適用するとは自分にとって何を意味するのか？

という問いに自ら答えることができなくてはなりません。

(引用文献:RI 第2840地区「ロータリーの基本」より)

1.3. ロータリーの目的(The Object of Rotary)

「綱領」は、原文(英語)は“The Object of Rotary”ですから「綱領」ではなく「目的」と訳するのが正しい訳です。また“Object”は単数で示されていますので、目的が4つあるということではなく「ロータリーの目的」の最初の2行が本文「目的」を示すので、以下の4項(5項※)は本文の具体的説明ということになります。最近、日本のシニアリーダーたちが「綱領」と訳されていた原文を厳密に検討し、以下の新訳を発表しました。

(ガバナー協議会・綱領等翻訳問題調査研究小委員会発表『ロータリーの友』2012年3月号参照)

定款 ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を实践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること；
- 第5 奉仕、メンタリング、国際交流、リーダーシップ養成の機会を通じて新世代のグローバルリーダーを育てること。(RI定款第4条、標準クラブ定款第4条)※

※「ロータリーの目的」の5つの項目は、等しく重要な意味を持ち、また同時に行動を起こさなければならないものであるということで、RI理事会の意見が一致している(ロータリー章典26.020.)
2016年規定審議会で2013年の制定案13-64と13-65を踏まえてRI理事会より制定案16-14「ロータリーの目的」改正として提出されている。(2016年2月では、第5条の文言は未確定である。)

1.4. 四つのテスト(The Four-Way Test)

「四つのテスト」は、シカゴロータリークラブの会員であったハーバート・テーラー (Herbert J. Taylor 後に1954-55年度国際ロータリー会長) が、1932年に倒産の危機に瀕していたクラブ・アルミニウム社の経営を任せ、会社再建のために考案した社員の行動基準でした。テーラーは、この24語(英文)からなる行動基準を、従業員、顧客、取引先すべてに厳格に適用し、その結果会社の信用が増し、業績も回復しました。

RI 理事会は、この「四つのテスト」を1943年正式に採択しました。1954年RI 会長に就任したとき、テーラーは「四つのテスト」の著作権を RI に寄付しました。以後、ロータリーではロータリアンの行動規範、職業奉仕実践の基準として「四つのテスト」を奨励しています。

「四つのテスト」の公式日本語訳(左)は簡潔でわかりやすいのですが、一般的な人生訓のようにすこし抽象的です。意識せずに職業奉仕の基準として改訳した例を右に示しておきます。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか



事業の立案・企画・実行はこれに照らしてから

1. 嘘・偽りはないか
2. 関係者すべてに公明正大か
3. 信用を高め、より良い関係を築けるか
4. 関係者すべてに有益か

(引用文献:RI 第2840 地区「ロータリーの基本」)

1.5. ロータリアンの行動規範(Rotarian Code of Conduct)

ロータリアンとして、私は以下のよう¹に行動する。

1. 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2. 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
3. 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
4. ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。

(2014年10月RI理事会 決定60号)

なお、最近、「ロータリーの目的」、「四つのテスト」と「ロータリアンの行動規範」がロータリーの基本三原則といわれている。

ロータリアンの行動規範の変遷

2011年11月、RI理事会決定87号でロータリー・ブランドを強化するために『ロータリアンの職業宣言』を修正して、次の『ロータリー行動規範』を創設された。(ロータリー章典 8.030.2)

▼次の行動規範はロータリアンのために採用された。

ロータリアンとして、私は以下のよう¹に行動する。

1. すべての行動と活動において、高潔性と言う中核的価値観の模範を示すこと
2. 職業の経験と才能をロータリーでの奉仕活動に生かすこと
3. 高い倫理基準を奨励し、助長しながら、個人的活動および事業と専門職における活動のすべてを倫理的に行うこと
4. 他者との取引のすべてにおいて公正に努め、同じ人間として尊重の念を持って接すること
5. 社会に役立つすべての仕事に対する認識と敬意の念を推進すること
6. 若い人々に仕事の機会を開き、他者の特別なニーズに応え、地域社会の生活の質を高めるために、自らの職業的才能を捧げること
7. ロータリーおよびロータリアンから託される信頼を大切にし、ロータリーやロータリアンの評判を落としたり、不利になるようなことはしないこと
8. 事業または専門職上の関係において、普通には得られないような便宜ないしは特典を他の同輩ロータリアンに求めないこと

(2011年9月RI理事会 決定87号)

▼次の行動規範に改正された。

ロータリアンとして、私は以下のよう¹に行動する。

1. 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2. 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
3. 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
4. ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
5. 事業や職業における特典を、ほかの同僚ロータリアンに求めない。

(2014年1月RI理事会 決定88号)

▼次の行動規範に改正された

会員特典プログラムに関するロータリーの修正が行われ、上記の5項目が削除され、4項からなるロータリアンの行動規範となった。

(2014年10月RI理事会 決定60号)

1.6. ロータリーの歴史

ここでは、初期ロータリー(1905~30年頃)、つまりロータリー理念形成過程の創生期を現象(制度)面より簡単に述べます。

ロータリーの創立 シカゴロータリークラブ(1905年)

ロータリーの最初のクラブは、自由主義経済が過熱し過当競争や誇大広告、不正が横行する20世紀初頭の米国シカゴに誕生しました。商道德の欠如する風潮に耐えかねた青年弁護士ポール・ハリスは、友人3人と語らってお互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やそうと考えました。

1905年2月23日、最初の会合に集まったのは、発案者の弁護士ポール P.ハリス(Paul Percy Harris)、石炭商のシルベスター・シール(Sylvester Shiele、シカゴロータリークラブの初代会長)、鉱山技師のガスターバス・ロア(Gustavus Loeehr)、洋服商のハイラム・ショーレ(Hiram Shorey)の4人でした。

ロータリークラブという名称は、色々の名前が挙げられ、議論は沸騰したが決まらず「役員も例会場も持ち回るのだから持ち回りという意味で輪番という言葉、つまり、ロータリーという言葉をつけたらよいのではないか」という提案に反論するだけの力が残っていなかったのでなんとなく決まったという逸話があります。ただし、職場持ち回りは6回例会迄で、その後は食事を共にしようということでレストラン持ち回りとなった。

最初の目的

創立の翌年1906年1月、シカゴロータリークラブは最初の「目的」として、以下の2項目を定めました。

第1 本クラブ会員の事業の利益の増大。The promotion of the business interests of its members.

第2 通常社交クラブに付随する親睦及びその他の特に必要と思惟する事項の推進。

The promotion of good fellowship and other desiderata ordinarily incident to social clubs.

会員間の相互扶助による会員の利益と社交クラブとしての親睦が謳われていますが、それだけではクラブの存在意義がないという声に応じて、2年後以下の項目が追加されました。

これは、第3代目の会長ポール・ハリスが、ドナルド・カーター(Donald Carter)の忠告を取り入れたとも考えられます。

第3 シカゴの最大の利益の推進、及び市民の誇りと忠誠とを市民の間に拡めること。

The advancement of the best interests of Chicago and the spreading of the spirit of civic pride and loyalty among its citizens

(参考)シカゴロータリークラブの初代会長は、シルベスター・シール、2代目会長がアルバート・ホワイト(Albert White)、この年度(1906年春)にフレデリック・ツイード(Frederic Tweed)がドナルド・カーターに入会勧誘をしたときに、「互惠主義の説明」を聞いてドナルド・カーターはエゴイズムの世界にはおられないと一旦断ったといわれている。その後、シカゴロータリークラブの「目的」に第3条(1906年12月または1907年1月改正説があります)が追加改正されたと推察されます。

地域社会に対する貢献、公共への奉仕

第3項の追加によって、従来の親睦と相互扶助に奉仕という全く異質なものが加わり、それまでの親睦・互惠派と奉仕・拡大派との確執が生じていきますが、ロータリークラブの活動の方向性が定まりました。類似の社交クラブのほとんどが歴史の流れの中で消滅していきましたが、ロータリーはこの方向性を実践の中で深化・洗練させることで世界中に発展していくことになりました。

シカゴロータリークラブが最初に行った社会奉仕活動は公衆便所設置運動でした。無料の公衆便所に反対する醸造組合と百貨店組合の妨害もあり、1907年の提唱から完成まで3年を要しましたが、単なる寄付行為ではなく市民運動にしていったことが、後のロータリーの社会奉仕活動のあり方を示唆しています。

親睦か 奉仕か

創立して2、3年で、シカゴロータリークラブ内で会員同士の親睦や金銭的な相互扶助を優先させようとする「親睦・互惠派」(Harry Ruggles, Charles A. Newton, Dr. William R. Neff 等)と、精神的な仲間意識を大切に、対外的な奉仕活動を積極的に行っていこうとする「奉仕・拡大派」の対立が起こります。創始者のポール・ハリスやアーサー・シェルドン(Arthur Frederic Sheldon)は、「奉仕・拡大派」でしたが、クラブ内では少数派でした。(この2つの派は先輩ロータリアンがよく使われる言葉である。)

ロータリーの例会の中で歌を歌う(ロータリー・ソング)習慣は、このシカゴロータリークラブ内の路線対立でぎすぎすした雰囲気や和らげようと、5人目の会員ハリー・ラグルス(Harry Ruggles)が“Hell, fellows Let's sing!”と呼びかけて当時の流行歌をみんなで歌ったのが始まりとされています。例会等で現在も歌われるのもその名残でありましょう。

自分の考え方の誤りは何処か？

ポール・ハリスは、1907年から親睦団体であるクラブに奉仕の概念を入れようとした。この時の彼の考え方は、「始めに親睦あり」、その上に高次の概念として「奉仕」が出てきたのだから、それが相容れない時には、親睦を抑えて奉仕が生きるべきだという立場をとりました。

その結果、親睦が崩壊してしまいました。そこで、ポール・ハリスは親睦と奉仕とを上下の関係において捉えたことの誤りに気づきました。

「親睦と奉仕とを同じレベルの概念として捉えるべきでした。この両者はロータリークラブという社会制度において表裏一体の関係にあります。いずれを優先させてもいけません。親睦と奉仕の調和の中にロータリーが宿る」と悟りました。ポール・ハリスは、その気持ちを全米のロータリアンに訴えるべく論文を書きました。これが有名な論文“Rational Rotarianism”「合理的ロータリアニズム」の「ロータリー＝寛容(toleration)論」で、「ロータリーは親睦と奉仕との調和の中に宿る」と説いたわけです。

ただ当時は、機関誌がなかったので発表する場がありません。そこでチェスリー・ペリー(Chesley R. Perry)に頼んで出来上がったのが“The National Rotarian”で、ロータリーが国際的に発展するに至って National がとれて現在の”The Rotarian”となりました。これが、この論文を巻頭論文としたロータリーの公的機関誌創刊号の物語です。時に、1911年1月26日のことでした。

全米ロータリークラブ連合会(1910年)

シカゴロータリークラブでの「親睦か奉仕か」という対立を解消するため、1909年の末頃、チェスリー・ペリーの連合組織体構想がありました。それは、クラブでは“親睦”を旨とし、当時シカゴから全米に広がり始めたロータリークラブの連合会で「奉仕理念提唱とクラブの拡大を推進する」という構想でした。1910年、全米にすでに16クラブがあり全米ロータリークラブ連合会が設立され初代会長には、ポール・ハリス、事務総長はチェスリー・ペリー(その後32年間在職)が就任しました。1910年度は会長在籍期間が短かったので翌年度もポール・ハリスは会長を務めました。1911年には、この二つの仕事の他に、情報媒介という仕事が付け加えられ、そして1912年に国際ロータリー連合会と名称が変わり、更に1922年に現在の国際ロータリー(Rotary International:RI)となりました。

「もし私のことを国際ロータリーの設計者と呼んでもいいとしたら、チェスも同じように国際ロータリーの建設者(施工者)と呼んで間違いないでしょう」(ポール・ハリス)

道徳律(職業倫理訓)の策定(1915年)

事業および専門職務のリーダーたちの集まりであるロータリーは、自らの職業において高い道徳的水準を維持すること、業界の職業倫理を高揚することに力を入れました。1915年のサンフランシスコ国際大会で11カ条からなる「職業人のロータリー道徳律(職業 倫理訓)」が採択されました。現在では、「歴史的文献」とされ、国際ロータリーの公式資料には掲載されていませんが、その内容はロータリーの「奉仕の理念」の真髄を表現しており、現代社会においてもロータリアンが守るべき指針となるべきものと考えられます。職業宣言を経て現在ではロータリアンの行動規範へと変遷しています。(サンフランシスコ国際大会で採択)

アーチ・クランプ基金創立 (1917年)

1917年アトランタ国際大会で、アーチ・クランプ(Arch C. Klumph)会長(1916-17年度)は「世界で善を成すための寄付金を呼びかけ1917年アトランタ国際大会で提案しました。[ロータリー基金]が創設されました。数か月後、1918年、カンザスシティー・ロータリークラブがカンザスシティー大会の余剰金米貨26ドル50セントの最初の寄付金が寄せられ、1927年のミネアポリス国際大会で、「ロータリー基金」は「ロータリー財団」と改称されました。2017年には創立100周年を迎え、各地で祝賀・記念行事が盛大に開催されます。

理念の提唱か 奉仕の実践か

1915-1923年頃、奉仕理念を提唱・奨励していくことを主にするか、実際に困っている人たちへの奉仕を積極的に行っていくか、という路線対立がロータリアンの中で起こりました。理念提唱派は、自らの職業で利益を適正に配分し、業界の職業倫理を高揚し、自己研鑽に励み、奉仕活動は個人の立場で行うべきだと主張します。

一方、奉仕実践派は、社会的弱者に対する人道的奉仕を実践すべきだ。そのためには、金銭的な援助や RC の団体としての活動も積極的に行っていこうと主張します。

当時は、身体障害児への援助に熱心に取り組むクラブも多く、世間ではロータリークラブは身体障害児援助専門の団体と思われていたこともあったそうです。身体障害児対策(この運動でとくにオハイオ州エリリア・ロータリークラブの EdgerAllen 通称“Daddy Allen”が有名で身体障害者養護協会を設立した)に傾注しすぎて資金的に行き詰るクラブも出てきました。この路線対立で、ロータリーは分裂の危機を迎えます。

決議23-34(1923年)

1923年セントルイス国際大会で決議 23-34(1923年国際大会の第34号議案)が採択されました。これは、奉仕理念と奉仕実践の調和を図り、理念提唱か奉仕の実践かという路線対立を解消するものでした。

この6条からなる決議23-34は、現在では「社会奉仕に関する1923年の声明」として知られていますが、採択当時は、「社会奉仕」に限定されるものではなく、ロータリーの「奉仕」と活動に関する基本方針(国際ロータリー並びにロータリークラブの未来の指針として綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針を明確に表わすもの)の表明でした。

第1条でロータリーとは何か、第2、3条でそれぞれ RC と RI の役割を述べ、第4条では「ロータリーは実践哲学」であることを謳い、第5条で「クラブ自治権」を確認し、第6条では、社会奉仕活動の指針を示しています。

特に第1条は、ロータリーの「目的」に謳われている「奉仕の理念」すなわち奉仕の哲学を明確に定義した条文として極めて重要な価値があると考えられます。(2010年規定審議会にて、決議案 10-182「社会奉仕に関する1923年の声明」の第一項を、奉仕の哲学の定義として使用することを検討するよう RI 理事会に要請する件 が圧倒的多数で採択されました。)

第1条 ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—「超我の奉仕」—の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

四大奉仕部門の採用(1927年)

1927年、ベルギーのオステンド国際大会で「目標設定プラン」(*The Aims and Objects Plan*)が採択されました。初期のロータリーにおいては、その活動は例会内と例会外に分類するだけでしたが、活動が多岐にわたり複雑化するにつれ、奉仕プログラムを調和する必要がでてきました。クラブの管理運営を奉仕活動の実践に対応させ分類・整理したのが、「目標設定プラン」で提示された「四大奉仕部門」(*The*

Four Avenues of Service)です。

クラブの活動を、「クラブ奉仕」「職業奉仕」「社会奉仕」「国際奉仕」の4部門に分け、それぞれ委員会を編成しました。これにより、クラブの組織と奉仕活動に整合性ができ、運営が円滑になりました。以後、この「四大奉仕部門」は、ロータリーの管理運営の基本的枠組みとして定着しました。

2007年の規定審議会で、標準ロータリー・クラブ定款の第5条に「四大奉仕部門」の定義が掲載されることになりました。さらに2010年の規定審議会で「新世代奉仕」が第5の奉仕部門として加わりました(採択制定案10-87)。

五大奉仕部門

ロータリーの五大奉仕部門は、本ロータリークラブの活動の哲学的および実地的な規準である。

1. 奉仕の第一部門であるクラブ奉仕は、本クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである。
2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うことが含まれる。
3. 奉仕の第三部門である社会奉仕は、クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みから成るものである。
4. 奉仕の第四部門である国際奉仕は、書物などを読むことや通信を通じて、さらには他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成るものである。
5. 奉仕の第五部門である新世代奉仕は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化がもたらされることを認識するものである。(標準ロータリークラブ定款第5条)

世界大恐慌(1929年)

1929年10月24日にニューヨーク証券取引所で株価が大暴落したことを端緒に、世界的な規模で金融恐慌と大規模な経済後退が起きました。1930年代に入って米国では、共和党から民主党への政権交代があり(1933年フーバーからルーズベルトへ)、政治的にも混乱しました。国際的組織として発展を続けていたロータリーが最初に経験した会員数の減少の時代です。

ロータリーは、この間も失業者や青少年への援助を中心に社会奉仕活動を続け、一方、職業奉仕の実践にも力を入れていました。一時的に会員数の減少はありましたが、ロータリアン企業も業績を早期に回復し、発展途上国の加盟クラブが増え、ロータリーは再び発展の時代を迎えます。

日本のロータリーの誕生 東京ロータリークラブ(1920年)

シカゴロータリークラブが創立されて15年後、日本に初のロータリークラブが誕生しました。1920年(大正9年)10月、米山梅吉を初代会長として、東京ロータリークラブが創立します。世界で855番目のクラブでした。1923年(大正12年)9月関東大震災が発生しました。この時、世界各地の503のRCから総額8万9,800ドルの義捐金・救援物資が届きました。これをもとに東京ロータリークラブは大規模な社会奉仕活動を実施します(震災孤児のための「ロータリーの家」建設)。日本のロータリアンが「ロータリーの力」を認識し、発展を目指すきっかけとなった出来事でした。

1928年(昭和3年)に発表された「大連宣言」は、初期の日本ロータリアンが、ロータリーの理念をよく咀嚼し、日本語で表現した文書として、歴史的価値の高いものです。

日本のロータリーは第2次世界大戦時、国際ロータリーから一時離脱(1940年)しましたが、戦後1949年(昭和24年)再び復帰加盟し、現在(2015年)は、米国、インドに次ぐ第3の会員数となっています。